

# INTEGRATED REPORTING <IR>

## IIRC ニュースレター 11-12月号

### IIRC の CEO である Paul Druckman 氏が 2015 年の「統合報告」を振り返る

2015 年は、ダボスでの World Economic Forum に始まり、そしてトルコでの G20 summit、同時に B20 Taskforces においては、2016 年の中国までは招待を受けています。この 2 つの出来事は、「統合報告」が国際的な地位に最早あることを示しています。「国際統合報告フレームワーク」を公表して、2 年あまりで、このようになったことは驚きです。短期間で世界中の企業がフレームワークを価値創造のための手がかりとしました。私が訪ねたあらゆる場所で、「統合報告」のコンセプトは概ね理解が得られていると思いました。話題性で先行してきたことは歪めませんが、「統合報告書」の持つ意味について多くの議論があり、一方で、この 1 年で、実質的なものがより得られたと言えます。

現在、750 を超える組織と、統合報告ネットワークを持ち、私たちと対話を深めながら、盛んな交流には驚きを覚えました。お互いの組織が作用するネットワークが広がりました。例えば、World Bank が主催した the Public Sector Pioneer Network に対して、「統合報告」の対話が高まりました。

IIRC は現在、「統合報告」による恩恵に関してたくさんのエビデンスを蓄積しつつあります。まもなく公開される KPMG と the National University of Singapore による、2010 年半ば段階で、財務諸表以外の情報開示をしている企業ほど、アウトパフォームが見られるとしています。

新刊  
価値創造  
シリーズ：

「統合報告書」と  
投資家の利益

IIRC 刊行物：

『「統合報告」における  
マテリアリティ』

統合レポートの  
準備に向けた  
ガイダンスを提供

ジャーナリストの  
Robert Bruce 氏が、  
勢いを増す  
「統合報告書」  
について  
IIRC の CEO  
Paul Druckman 氏  
と語る

私たちはまた、「統合報告」の実践につながる「統合報告」事例データベースを立ち上げました。これを活用することによって、「統合報告」の最前線の事例からヒントを得ることができます。

「統合報告」に刺激を受けているのは企業側だけではありません。投資家は財務諸表以外の情報を考慮する投資モデルを変更しつつあります。投資家ニーズとトレンドに関する EY の研究調査によると、投資家の71%は投資判断をする際に「統合報告書」を必要不可欠または重要と考えており、全ての大陸で、「統合報告書」の利用が増えているとしています。

政策立案者においても、気候変動、the Sustainable Development Goals、鍵がかかっていたインフラストラクチャーといった、国際的な課題に対して、コーポレート・レポート・レポーティングが果たすことができるでしょう。

2015年の最も重要なマイルストーンの一つに、the Corporate Reporting Landscape Map のリリースがありました。これは、the Corporate Reporting Dialogue 参加者のフレームワークや基準、「統合報告」というレンズを通した関連要求のスナップショットを提供しています。この Map はこれまでの対話の成果であり、記録すべき、実質的な進展として意味があることでしょう。

IIRC は 2015 年に、新理念や新ボードが加わるなどの変化が起きました。ボードは「統合報告書」における、グローバルな知見、影響を及ぼせる方々ばかりです。

2015 年は IIRC にとってエキサイティングな年でしたが、2016 年にはさらなる機会と課題がわれわれを待ち構えており、フレームワークの早期適用に向けて大きく前進したいと思います。特に、「統合報告」適用の進捗と広がりが継続することを期待しています。例えば、重点的に、投資家へのブリッジをすることや、とくに期待したいことは、実施したフレームワークをレビューすること、高品質なクオリティ・レポートや、資本の特定につなげること等、です。

われわれのグローバルな動きに賛同してくださった皆さんに代わりまして、「統合報告」のご支援に感謝申し上げます。来年も皆さんと一緒に活動できることを楽しみにしています。

南アフリカから  
新レポート：

南アフリカの  
統合報告委員会が  
Reporting on  
outcomes an  
information paper  
をリリース

また

Nkonki が  
'Insights into  
the Top 100\*  
JSE 上場企業  
トップ 100 の  
見通し：  
「統合報告」  
トレンド  
をリリース

## 統合報告を使用することで 気候変動は考慮できます

IIRC は COP21 での同意を歓迎し、パリ協定の成果が気候変動を食い止める促進力になると考え、積極的に関与していきます。レポートは行動を引き起こす原動力となるので、気候変動が資本市場において金融の安定に対する根本的なリスクとして認識されることが重要です。

IIRC は CDSB と EY と協働し、気候変動に関するファイナンス活動についての議論を、パリでの気候会談と同時開催しました。イベントでは、気候変動に 대응するために、疎外する資本について、「統合報告」が役割に焦点を当てました。IIRC のボードメンバーであり、WWF-UK の CEO である David Nussbaum 氏が、基調講演を行いました。同氏は、BBC の放映で、「パリは低炭素未来へ向かう競争の火ぶたを切った」とコメントをしました。

2015 年は、2008 年の世界金融危機が、国際的な政策のうえで、より広範囲で全体的な課題であると考えさせられました。政策立案者は普遍的な観念で“システム”を再構築する努力をし、経済、社会、環境の目標を一つに束ねてきました。そのことは、「統合報告」の根底をつくり、事業活動が単なる財務資本の枠を超え、短期、中期、長期をつなぐ、より広範囲の資本に注力する必要があるという認識に影響を及ぼしています。

“tragedy of horizons” の分析で著名な Mark Carney 氏は、2014 年 10 月の World Bank が主催した「統合報告書」セミナーや、ロンドンであったロイズ銀行が主催した “Breaking the tragedy of the horizon: climate change and financial stability” と題した講義で、「統合報告」が気候変動抑制に作用する一旦を担うということを示しました。同氏の “tragedy of horizons” が述べていることは、私たちのシステムに失敗があり、気候変動等問題によってもたらされたことを、財務システムにいかにか考慮すべきかであった点でした。

# 東京にて、 IIRC Council 会議、 「統合報告」は 広く受け入れられる

12月、日本にて、IIRC Council 会議を行いました。同国では、経済的目標に適合した「統合報告書」が普及している国でもあります。Council では、2018年以降に向けたIIRCの戦略に関して、グローバル戦略コンサルタントのマッキンゼー・アンド・カンパニーと共に充実した議論を行い、企業レポートの将来的なシステムについての議論を発展させました。

マッキンゼー・アンド・カンパニーは“Focusing Capital on the Long Term”のイニシアティブをとり、事業の置かれている現状を描写し、IIRC Council メンバーによる議論を先導しました。例えば、78%のCFOが短期間の収益を向上させるがゆえに、長期間の価値創造を向上する機会を失うことになるかと公言しています。対照的に、86%のシニアの執行役員はより長期的な事業方針の決定が事業のパフォーマンスを向上させると認識しているとしています。

議論は企業のレポートシステムの集約に焦点が当てられました。例えば、「統合報告」を企業レポートとして標準化する方法や、「統合報告」の質を保証する方法、「統合報告」導入をより奨励していくための規制の役割などです。これらの議論のアウトプットはIIRCの戦略方針に直接的に影響するからです。

東京ではCouncil 会議と同時に、注目すべきイベントが一週間を通して開催されました。日本公認会計士協会と日本取引所グループは、「統合報告書」が日本のビジネスにおいて、自然な言語として浸透したということを示すイベントを共催してくださいました。多くの日本企業が「統合報告」を作成し、来年はさらに増えるだろうと予測し、レポートの質を高めることに焦点が当てられているとしています。

CIMA の CEO である Charles Tilley 氏は、日本の経済界のリーダが集まる経済同友会の開催したシニア執行役員のセミナーで基調講演を行いました。Tilley 氏は私たちの生きる世界が “VUCA”、すなわち、volatile で、不確かで、複雑であいまいな世界であることについて語りました。彼は、実体のないものの価値が著しく上昇するような事業環境で、“我々は単にバランスシートだけではなく、事業そのものの説明をしていかなければならない” と述べ、「統合報告」はそれを可能にしていると述べました。

WICI シンポジウムは経済産業省に支援されており、レポートの価値を向上させ、企業が価値創造に対する理解を深めながら、知的、社会的資本のような不明瞭なものの価値を見せていく必要性が高まっていることを示しました。多くの日本企業がすでにこれらの資本をビジネスモデルの中心にもち、「統合報告」がこれらを明瞭に表現する有効な手段であることとしていました。

## 統合報告に 関心を寄せる G20

トルコの G20 議長は、ビジネスと政策立案者間で、「統合報告」への支援についてのギアチェンジを表明しました。報告は 6 つすべての B20 タスクフォースのディスカッションの一部で、「統合報告」はインフラ投資、中小企業とアントレプレナーシップ、ガバナンスとサステナビリティの横断的テーマの 3 つの分野での提言の一部をまとめたものです。私たちはインフラ投資の一助である、「統合報告」実施のための壁を乗り越え、コーポレートレポートの見直しとなる、それらの提言の実現に積極的になるべきです。

提言の中で G20 は「統合報告」を、中小企業のパフォーマンスを高め、そして融資リスクの低減という意味で、模範となるプラクティスと定義づけました。2015 年トルコの G20 議長が残した最も重要な未来への遺産は、B20 によって中小企業とアントレプレナーシップのタスクフォースがもたらされた World SME Forum の立ち上げかもしれません。50% の中小企業における貿易上のファイナンスを、銀行が

断りました。世界の民間セクターの労働人口の3分の2以上を雇用し、80%以上の雇用純増をもたらしている中小企業が世界で果たす役割を考えれば、中小企業金融のリスクを低減する何かが必要なのは明らかです。

成功を収める中小企業をつくるためにIIRCが貢献できることは、金融資本へのアクセスを可能にすることです。「統合報告」が模範となる慣行であり、国際的な方法論に基づく『目的に応じた中小企業における「統合報告」』、オンラインアクセス可能なツールの開発を推奨すると、B20タスクフォースは強調しました。IIRCは、中小企業が成長に必要な金融資本にアクセスする手助けとなる実用的なツールとリソースを、World SME Forumとともにつくることに貢献します。

CIMAは、中小企業が資本にアクセスでき、長期的に価値を創造するために、金融界及びステークホルダーとの信頼や自信を構築するうえにおいて、中小規模ビジネスの実用的なケーススタディをもたらす「統合報告」の役割を支持します。

IIRC CEOのPaul Druckman氏とChief Strategy OfficerであるJonathan Labrey氏は、トルコG20議長が包括的成長と持続的発展に向けた一歩を歩んだとブログで述べている点を紹介しています。

## 「統合報告」トレーニングプログラムにおけるニュース

IIRCは2015年7月にリリースした「統合報告」Competence Matrixの良好なフィードバックを受けました。次のステップは「統合報告」Training programmeの創立パートナーを募集しています。IIRCはこのトレーニングを少数の団体と市場に導入していくことを見据えており、それによって一定品質を保つことができます。アプローチとプロセスの詳細を提示した文書は今月リリース予定です。

フィードバックのうち68%が、同マトリックスは「統合報告」の領域で必要とされる知識やスキル、行動が識別可能としています。また、マトリックス内の4つの領域のコンピ

タンスでも平均 75% のポジティブな反応を得て支持されました。このフィードバックの分析結果はマトリックスのさらなる発展のために提供されます。本トレーニングプログラムに参加希望の方は [training@theiirc.org](mailto:training@theiirc.org) までご連絡をください。

## 2015 年 「統合報告」総会において 進歩と名案を可能にする

2015 年「統合報告」総会に 180 名を超える人々が参加し、戦略や価値創造に対する、より一層のアプローチに焦点を当てました。Coalition for Inclusive Capitalism の共同創設者である Lady Lynn Forester de Rothschild 氏は、包括的資本主義に向けて動いていく中で統合報告は「全く、実にきわめて重要な」役割があるとして基調講演を行いました。

総会の期間中、レポートの著者の一人である、IFA の Stathis Gould 氏によって『「統合報告」におけるマテリアリティ』が発行されました。論文は「統合報告」の文脈でマテリアリティ、および対応するマテリアリティ決定プロセスを説明することによって、「国際統合報告フレームワーク」を助けるとしています。もし組織の短、中、長期の価値創造能力に大きな影響を与えるならば、問題は重大であると参加者らは耳にしました。報告目的のためにマテリアリティの決定を行うことは、些細なことではないはずです。それはプロセスの各所でリサーチ、コンサルテーション、判断を伴うことになります。これはマテリアリティへの実践的アプローチを共有している PwC、IFAC、EnBW、Enagas、Rodeco による総会で再度話し合われることにもなりました。総会で話し合われた多くの分野のうちの一つでした。

総会によって、「統合報告」をよく知らない人々が上級レポーターらから学べたと思います。IIRC の CEO、Paul Druckman 氏は、リーダーシップ分野における米国の教授であり、4人の米国大統領のアドバイザーを務めた

Warren B. Bennis 氏からの引用でその日を締めくくり、「Leaders keep their eyes on the horizon, not just the bottom line」。「統合報告」による、ビジネスリーダーへの手助けは始まったばかりです。

## 「統合報告」ネットワークを通して協力する学者たち

今週、IIRC は webinar を通じて「統合報告」 Academic Network を開催しました。ネットワークは学者同士や、レポート・レポーティング組織、財務資本の供給者、政策作成者、基準政策者等間で、情報共有や協力を有意義に行いました。そのことはまた、IIRC が学問的な考えと並行しながら、「統合報告」におけるビジネスケースに関連した研究成果があったことを明確にもしました。

コーポレート・レポート・レポーティングへのアプローチが進展することを期待している組織は、市場におけるパフォーマンスの観点から包括的な「統合報告」の影響を見る必要があるでしょう。学問的で厳密な証拠を重要にするでしょう。この点で「統合報告」 Academic Network は、コーポレート・レポート・レポーティングの領域での、注目される研究や、重要な役割があると言えます。

Webinar は現在の研究の概要とネットワークの特徴の詳細、「[統合報告」 Academic Network](#) の LinkedIn ページなどを通して参加が可能です。



Website    Twitter    LinkedIn    YouTube

Contact: [juliet.markham@theiirc.org](mailto:juliet.markham@theiirc.org)

Copyright © 2015 International Integrated Reporting Council, All rights reserved.  
[unsubscribe from this list](#)    [update subscription preferences](#)